

# 依存問題のRSNがNPO法人に

これまで任意団体だった「ばちんこ依存問題相談機関」の「リカバリサポート・ネットワーク」(RSN)は10月21日から法人格を取得し、「特定非営利活動法人(NPO法人)リカバリサポート・ネットワーク」に名称変更した。

05年9月に全日遊連ばちんこ依存問題研究会(座長・米田義一兵庫県遊協理事長)から「目に見えるパフォーマンスに終わらない取り組みを考えてほしい」と要請を受けて06年4月に設立。  
「限られた予算の中で、机はもとより、パソコンも自分で組み立

て、事務所内のネットワークはすべて手作業、人集めにも四苦八苦しました。今も、さして変わりはないのですが、スタッフが増え、日々の補修・大作業やトイレ掃除からはようやく開放されています」と、設立から3年半が経ち、NPO法人の代表理事に就任した西村直之氏は機関誌「さくら通信」(11月25日発行)の中の挨拶文で語っている。

以下は役員の一覧。  
【特定非営利活動法人リカバリサポート・ネットワーク役員代表理事】西村直之、理事】安高真

弓、綾部真雄、磯敬夫(全日遊連専務理事)、稲村厚、尾田真言、原田實(全日遊連理事長)、村上優、八尋光秀、米田義一(全日遊連ばちんこ依存問題研究会座長)、力武一郎(同副座長)、監事】梁川康成(全日遊連財務委員長)、高橋孝一郎

## 09年度上半期電話相談事業の詳細を発表

RSNの09年度上半期(09年4月1日〜9月30日)の電話相談の結果が11月25日、発表された。

電話相談は4月から6月までが1カ月128件ずつで、次いで7月124件、8月112件、9月120件の合計740件。1カ月平均は123件で、昨年度の月平均より24件の増加。「ホール内に貼ってあるポスターを見た方からの相談が多いため、安定して相談をお受けしています」という。

県別では関東、関西と九州の都市圏、沖縄からの相談が多く、電話の相手は本人61%(昨年度63%)、家族・友人27%(28%)と昨年度と1、2%の変化にとどまった。性別は男性64%(66%)、女性24%(25%)とやはり1、2%の変化。昨年度同様、30代からの相談が一番多く、次いで40代、20代の順。  
のめり込んでいるのはパチンコ

52%(60%)、スロット12%(12%)、両方34%(25%)、不明2%(3%)と、「パチンコ」と「両方」が増加。相談内容はやめる(やめさせる)方法が62%と半数以上。家族・友人からは、本人との接し方や地域の相談先の質問が多かったという。

RSNからの紹介先はキャンプ・ライズ・アノニマスが227件と最も多く、次いで県精神保健福祉センターと医療機関が78件ずつ。上半期は精神医学的問題を持った人からの相談が増えたため、医療機関への紹介が増加した。  
RSNの電話番号をどこで知ったかについては、ホール内ポスターが49%(50%)で半数を占め、インターネットが16%(15%)で昨年度と大きな変化はなかった。